

臨床研究の情報公開

研究課題名	術前 Bevacizumab 療法が術後体腔内感染および縫合不全に影響を及ぼすかの検討
研究機関	弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座
研究内容	直腸癌患者に対して根治をめざすための確実な治療方法は手術です。しかしながら進行癌において術後再発は依然存在します。直腸癌術後再発の軽減を目的に当科では術前化学療法を導入していますが、その周術期安全性に関する影響は十分に明らかにされてはおりません。とくに Bevacizumab は創傷治癒遅延の副作用を有するため、一定期間後の手術が推奨されており、当科でもその期間経過後に手術をしております。しかしながら、そのような対処においても術後感染や縫合不全の発症を経験し、その安全性が懸念されています。そこで、過去の症例を調べ、術前 Bevacizumab 療法による周術期の影響を検討します。
実施期間	倫理委員会承認日から平成 28 年 12 月 31 日まで
対象者	弘前大学消化器外科で 1999 年 12 月から 2016 年 1 月まで直腸腺癌の診断で直腸切除および吻合術を受けた上部および下部直腸癌患者 548 人が対象です。
実施方法	患者さんへ介入を行わない既存情報を使用する研究です。既存情報は診療録を利用し、患者背景（年齢、性別など）、直腸癌の臨床病理所見、術式、合併症などの手術関連情報、再発、予後などの術後情報を使用します。患者個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。
参加撤回の自由	患者さんが解析対象となることを望まない場合、研究対象から除外しますので担当医師や下記に御連絡ください。その場合、当科での診療において何ら不利益を受けません。
問い合わせ先	研究計画書や研究の方法に関する資料などの閲覧希望、研究についての疑問などの問い合わせは下記にご連絡ください。 研究実施責任者：三浦 卓也（みうら たくや） あて先：〒036-8562 弘前市在府町 5 弘前大学大学院医学研究科消化器外科学講座 電 話：0172-39-5079（講座直通） F A X：0172-39-5080（講座直通） メール：tmiura@hirosaki-u.ac.jp